

令和3年度自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成</p> <p>1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく 4 「地域探究の時間」の発展・充実</p>
---------------------------	--

<p>今年度の重点目標</p>	<p>1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく ①進路目標の明確化 ②基礎学力の向上 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく ①基本的な生活習慣の確立 ②生徒会活動・部活動の充実 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく ①学校行事・学級活動の充実 ②安全意識・安全技術の向上 4 「地域探究の時間」の発展・充実 5 業務改善の取組の推進 ①業務の精選と組織的な実施 ②生徒への適切な対応</p>
-----------------	---

評価基準 A:十分達成 [90%] B:概ね達成 [70%程度] C:変化の兆し [50%程度] D:まだ不十分 [35%程度] E:目標・方策の見直し [20%以下]

年 度 当 初				評 価 結 果 (9) 月			
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和2年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく	進路目標の明確化	<p>○キャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。</p> <p><指標> 1年:全員が具体的な進路目標を1つ以上掲げる。 2年:3つ以上の進路候補について比較・調査を行う。 3年:具体的な進路先について志望理由書を完成させ、進路実現する。</p>	<p>○入学当初は進路目標が不明確な生徒が目立つが、総合的な探究の時間(地域探究や進路探究)を通して進路目標が明確になる生徒が増える一方で、進路目標が明確にならない生徒が若干見られる。 ○進路目標が明確な生徒でも、進路目標を実現するための具体的な活動が取り組みができない生徒が一部に見られる。 ○3年次になると、主体的に志望理由書を完成させる生徒が多いが、面接練習に消極的な生徒も見られる。</p>	<p>○「総合的な探究の時間」を見直すとともに、学習後の振り返りを通して自己理解を促し、将来の目標設定につながる活動となるよう努める。 ○進路志望調査の回数を増やし、生徒一人ひとりの進路志望の変化を把握し、面接週間における面接を通して進路目標を明確にするよう指導する。 ○学年会や進路検討会を通して、生徒一人ひとりの模試成績や学習状況を踏まえ、適正な進路目標をアドバイスできるよう努める。</p>	<p>○3年生では、進路志望調査の回数を昨年度よりも増やし、担任は生徒の志望動向をこまめに把握しながら、面談を行った。また、進路検討会を行う中で、生徒の状況や過去の実績を踏まえ、適正な進路目標をアドバイスできるよう、情報交換を行った。 ○1年生では、年間計画に基づき、進路研究を行った。</p> <p><R3中間実績> 1年:多くの生徒が大学・短大・専門学校・就職のくくりで進路目標を掲げている。 2年:未実施。 3年:志望理由書書きを夏休みの課題とし、大多数の生徒が取り組んだ。</p>	C	<p>○1年生については、今後実施する進路別ガイダンスや企業ガイダンスを通して進路を考えさせるとともに、来年度の科目選択と合わせて具体的な進路目標を設定させる。 ○2年生については、今後実施する進路別ガイダンスや「総合的な探究の時間」、LHRの時間を中心に、進路候補について比較・調査させる。 ○3年生については、具体的な受験先が決まった生徒が進路実現できるよう、学年団・キャリア部進路係が中心となって個別に丁寧な指導を行う。</p>
	基礎学力の向上	<p>○どの生徒も授業を大切に、主体的に授業に取り組んでいる。</p> <p><指標> 1年:到達度テストの結果をもとに指示したスタディサブリに60%以上が取り組む。 2年:家庭学習を平日1時間、休日2時間行う生徒が60%以上となる。 3年:スタディサポートでDゾーンの生徒が40%以下となる。</p>	<p>○落ち着いた授業に取り組む生徒が多い中、学ぶ意義が思いだせない生徒が一部に見られる。 ○授業の予習・復習の取り組みが不十分なために、家庭学習の習慣が身につけていない生徒が目立つが、課題等の提出率は比較的高い。 ○考査に向けて前向きに取り組む生徒が多いが、遅進者指導を行っても成果の出づらい生徒も見られる。 ○模試の活用目的が理解できず、模試に対する取り組みが甘い生徒が見られる一方で、支援をすれば意欲的に取り組む生徒も見られる。</p> <p><R2実績> 1年:実績なし 2年:家庭学習平均時間 平日25分、休日51分。 3年:実績なし</p>	<p>○授業第一主義を説論するとともに、総合的な探究の時間の振り返りを通して学習意欲を喚起する中で、授業を通して教科書の基礎・基本の徹底を図る。 ○教科会や学年会で日頃の授業の状況を共有し、学ぶ雰囲気醸成に努める。 ○スタディサポートの課題の取り組みやスタディサブリの課題や動画・確認テストを計画的に配信することを通して、家庭で学習する習慣付けと弱点の補強に努める。 ○考査を通して、日頃の授業の理解と定着度を生徒自身に把握させるとともに、授業の振り返りと改善を行う。</p>	<p>○多くの授業で、基礎・基本の習得に重きを置いた授業展開となっており、生徒も演習を通して「分かる」から「できる」ようになるための努力をしているが、一部に集中しきれない生徒が見受けられる。 ○予習を前提とした授業構成で基本事項を徹底した上で、発展的な内容を扱ったり、ICTを活用した調べ学習や共同学習を通して生徒の学習意欲を高めている授業も見られる。</p> <p><R3中間実績> 1年:各教科で出されたスタディサブリの課題全てに60.2%の生徒が取り組んでいる。 2年:家庭学習調査(9月)で平日1時間、休日2時間行う生徒は10.7%。(平均:平日27分、休日41分) 3年:スタディサポート(4月)でDゾーンの生徒は61.0%。</p>	C	<p>○生徒の学習意欲を喚起する授業づくりに努め、より確かな学習内容の定着を目指す。(例:ICTを活用しながら、調べ学習や実験・観察・発見型の授業を行う。問題解決に向けた話し合いや発表する場面を設定する。) ○1年生は到達度テスト結果から国数英が中心となって確認テストの実施や動画の配信を計画的に行い、スタディサブリの利用率をさらに高める。 ○2年生は日頃の課題に加え、スタディサブリの活用では、チェック体制を整え、確認テストの課題提出や動画の配信を計画的に行う。 ○3年生は「総合的な探究の時間」(進路探究)で意識付けを行い、生徒個々の進路志望に合わせた学習活動を行いながら、学力向上に努める。</p>
自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく	基本的な生活習慣の確立	<p>○より高い生活習慣及びマナーやモラルを身につけ落ち着いた生活できている。</p> <p><指標> ・年間遅刻者数(正当な理由・連絡がある者を除く)が生徒数の70%以下となる。 ・頭髪・服装指導対象者数、問題行動指導対象者数が前年度よりも減少している。</p>	<p>○昨年度は、遅刻指導や服装指導を行う場面が多かった。今年度は、家庭連絡を行い、基本的な生活習慣の確立・遅刻の減少・授業規律・服装容儀・公共マナーの徹底に向けて学校を挙げて取り組もうとしている。 ○教室内の整理・整頓は生徒会の協力もあり、実施できている。</p> <p><R2実績> ・年間遅刻者数(正当な理由・連絡がある者を除く)は生徒数の80%。 ・頭髪・服装指導対象者数(実績なし)、問題行動指導対象者数(22件42名)</p>	<p>○5Sの徹底。(整理、整頓、清掃、清潔、躰) ○遅刻・服装・不要物など各指導票を活用する。同時に家庭連絡を入れる。 ○教室や公共の場所からの私物の撤去及び整理整頓を徹底する。 ○基礎・基本の徹底等、SHRなどでのタイムリーな指導をする。</p>	<p>○クラス担任、生徒会の協力も得ながら、整理整頓等に努めた。 ○指導票の活用とともに、保護者への連絡を行いながら、生徒指導を進めているが、男子生徒では頭髪指導、女子生徒では化粧・スカート丈で指導を受ける生徒が一定数いる。生徒の問題行動では、無断アルバイトで指導を受ける生徒がいた。</p> <p><R3中間実績> ・9月末時点での遅刻者数(正当な理由・連絡がある者を除く)は生徒数の55.2%。 ・9月末時点での問題行動指導対象者数は9件20名。前年度とほぼ同じ。(R2 10件21名)</p>	C	<p>○2学期は遅刻者数が増える傾向があり、服装指導と合わせて、家庭連絡をその都度行い、協力をしてもらう。</p>
	生徒会活動・部活動の充実	<p>○どの生徒も生徒会活動に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。また、学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的に行う生徒が増えている。 ○志を持ち夢を叶えるための競技力と精神が身につけている。自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。体育コースの生徒は、講演会や講習会を通して、トップアスリートを目指す意識レベルを高めている。</p> <p><指標> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AとB合わせて90%以上となる。 ・県大会優勝6部以上。全国大会出場8部以上、全国大会出場者数のべ150名以上となる。</p>	<p>○わずかだが興味を示さず人任せになる生徒がいる。執行部員、実行委員はリーダーシップは発揮できるようになってきたが企画運営の部分が弱い。 ○部活加入率1年99%、2年76%、3年87%。2年の加入率が低い。また、運動部80名に対し文化部は2名である。 ○昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、全国大会等が中止になり、出場機会が少なかった。 ○体育コースの上級学校進学者は20名あるが、そのうち競技を継続する生徒は10名であった。</p> <p><R2実績> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AとB合わせて83%。 ・県大会優勝3部、中国大会優勝1部、全国大会出場資格取得2部、全国大会出場(リモート含む)6部、全国大会出場者数(リモート含む)67名</p>	<p>○行事におけるクラス内での係りの仕事を共有できるようクラスに提案する。 ○新聞部発行の新聞にコーナーを作ったり掲示板及び掲示物で目的を全校生徒に伝えるための工夫をする。 ○担任を通し部活未加入者にボランティアなど参加するよう促してもらう。 ○高校で競技を終えることのないよう、更なる可能性を見出す指導と高い志の育成、将来指導者となる人材の育成を行う。 ○スポーツ・文化芸術活動重点校として、体育コースの取組である「各種講演会・講習会」を通し、競技力の向上に繋げている。</p>	<p>○育英祭に向けては、クラスLHRの回数、各委員会の回数を増やして、生徒が準備ができた。アンケートでは「全体的によかった」99%であった。 ○生徒会執行部の活動を継続して行い、生徒が主体となったより良い学校づくりを進めている。(毎月の生活目標の教室掲示、学校新聞への掲載、委員会と連携した教室点検等)</p> <p>○3年体育コース(35名中)上級学校へ進学希望する生徒は24名おり、その内10名が競技を継続する予定。 ○全国高校総体に陸上・レスリング・バレーボール・水球・空手道が出場し、好成績を収めた。(全国高校総体結果:水球3位、レスリング個人3位・5位入賞)</p> <p><R3中間実績> ・県大会優勝4部。全国大会出場7部、全国大会出場者数のべ70名。</p>	B	<p>○今後の学校行事となる球技大会では、生徒たちが主体となって運営できるように、キャプテン会議を設定し、各種目キャプテンに内容、ルール等が確実に伝わるようにする。 ○後期生徒会が主体となり、学校の校則(主に服装に関する事項)の見直しを進める。その取組を通して、より良い学校づくりに主体的に参画する意識を多くの生徒に身に付けさせる。 ○部活動未加入者(中途退部者含め)を把握し、ボランティアなど参加するよう促す。</p> <p>○今後の体育コースの取組として、スポーツマッサージ講習会(2年生)、スポーツ栄養講座(1年生)を計画通り実施し、競技力向上につなげていく。</p>

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月		
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和2年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
自他を思いやり、他と協力する力が身につく	学校行事・学級活動の充実	<p>○どの生徒も学校行事やLHRの活動を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けるなど、人間力の向上が見られる。</p> <p>○体育コースの生徒は、各種実習を通して、集団生活での協力・協調性を身につけている。</p> <p><指標> 生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができている」で評価AとB合わせて90%以上となる。</p>	<p>○部活動中心または、自己中心的な生徒がおり、全員参加で、ともに協力し全員で行事を作り上げることが出来ていない。</p> <p>○体育コースの生徒が、部活動の面でリーダー的な役割を果たしている。学校生活においてもリーダー的な役割を果たしていく必要がある。</p> <p>○昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、「講演会」が実施できなかった。また、「各種実習」も宿泊の制限があった。</p> <p><R2実績> ・生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができている」で評価AとB合わせて91%。</p>	<p>○育英祭などクラスの運営委員にクラス全員で協力できるような方法を説明する。</p> <p>○「各種実習」を実施し、人間性や協調性を養う。</p> <p>○定期的に体育コース集会を開き、体育コースの一員として、自覚ある行動及び習慣を身に付けさせる。</p>	<p>○育英祭では、1年はクラスの人数が少ないこともあり、よく協力して取り組めた。2、3年も概ね協力して取り組めた。</p> <p>○体育コースの行事については、コロナの影響により、3年キャンプ実習が中止。大運動会では、企画・準備段階から意識をもって取り組めた。</p> <p>○体育コース集会は4月に開催し、体育コースとしての自覚等を持つように話をした。昨年度に比べ改善がみられる。</p>	C	<p>○今後の行事となる球技大会については、選手決定において話し合いをしながらクラス皆で決定するよう段取りを行う。</p> <p>○体育コースについては、各種実習(スキー・ゴルフ)でも準備の段階から役割等を持たせ、リーダーとしての責任を持たせる。(キャンプ実習中止の代わり、ゴルフ実習を2日間設定。)また、講演会や実習についても計画通り実施していく。</p> <p>○体育コース集会は、定期考査前など機会を捉えて実施する。</p>
	安全意識・安全技術の向上	<p>○生徒が安心して学校生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいる。</p> <p><指標> 生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている教育を行っている」、「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」で評価AとB合わせて90%以上となる。</p>	<p>○体育の授業や部活動で、安全への意識の向上と安全対策の徹底に取り組んでいる。学校生活全般においても事故防止に努め、安全対策の徹底を継続的に図る必要がある。</p> <p>○様々な個性を持った生徒がおり、一人一人の個性に応じた「学び」が保障される必要がある。</p> <p><R2実績> ・生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている教育を行っている」(83%) ・生徒アンケート「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」(79%)</p>	<p>○教職員及び生徒(部活動各役員)対象の救急救命講習を実施し、全員の受講をめざす。</p> <p>○いじめ防止基本方針に沿った「学校生活に関する調査」を定期的に実施し、組織的な対応を図る。</p>	<p>○救急救命講習は、コロナ感染防止対策のため、例年の日程の夏季休業中には実施できなかったため、冬季休業中の実施を予定している。</p> <p>○「学校生活に関する調査」は、1学期は5月と7月に実施し、環境保健部と各学年で情報を共有して、その後の面接指導等に活用した。</p>	B	<p>○今後は、避難訓練等の機会を捉えて、様々な災害、負傷等への対応の周知を図り、安全確保の徹底に努める。</p> <p>○「学校生活に関する調査」は、今後も各学期に1回を目処に実施し、生徒の実態把握に努めるとともに、環境保健部と各学年との連携を密にし、日常的な保健・相談業務を継続していく。</p>
「地域探究の時間」の発展・充実	「地域探究の時間」の発展・充実	<p>○2年生を中心に全校生徒が「地域探究の時間」に取り組み、地域に関する関心が高まっているとともに、コミュニケーション力、探究学習力、プレゼンテーション力を身につけている。</p> <p><指標> 1年:「地域探究入門」の事前・事後アンケートで、TMT「地域探究で身につけたい力」の自己評価の高まりが全項目で見られる。 2年:「地域探究」の事前・事後アンケートで、地域貢献に対する志などの高まりが平均して10%以上向上する。 3年:「地域探究」の学びが進路実現につながったと自己分析する生徒が学年全体の50%以上となる。</p>	<p>○1年次は「地域探究入門」を通して、地域への興味関心が地域の資源やその魅力を再考することやテーマ設定の仕方・探究活動を行う上での分析法や資料のまとめ方について意欲的に取り組む生徒が多いが、自己の課題と捉えられない生徒も若干見られる。</p> <p>○2年次はテーマごとのグループに分かれ、探究意欲が高まり、主体的に探究活動に取り組む生徒が多いが、グループ活動がゆえに一部に他人任せにする生徒が見られる。</p> <p>○3年次は2年次の「地域探究」の活動を活かし、進路目標に向かって前向きに取り組む生徒が多いが、進路目標が不明確なままで活かしきれない生徒が若干見られる。</p> <p><R2実績> 1年:実績なし 2年:「地域探究」の事前・事後アンケートで、地域貢献に対する志などの高まり 11%向上。 3年:実績なし</p>	<p>○1年次から「キャリアパスポート」の取り組みと合わせて、学習目標の設定や振り返りをさせることで、生徒の視野を広げたり、身についた力を把握させ、具体的な将来設計を描くよう指導を行う。</p> <p>○年間計画を生徒・教員に周知し、時期・やるべき内容に見通しを立てながら計画的に進める中で、進路志望調査や面接(面接週間)の機会を捉え、進路実現に向けた具体的な取り組みができるよう指導を行う。</p> <p>○生徒が身につけた力について、SMT(※)で確認しながら指導・改善を行う。 ※SMT:進路探究で身につけたい力 S M T</p>	<p>○1年次からの地域探究入門は10月から活動開始予定である。</p> <p>○年間計画通り活動を実施中。指導側の探究計画が生徒の創造力の障壁とならないよう地域講師とともに連携を密にとり活動を進めている。コロナ禍でありながら予定通り第1回フィールドワーク実施済。</p> <p>○年度初めにSMT調査を実施、職員会議にて全職員で共有し指導に活かしている。特に「マナー力」「聴く力」に重点をおいて取り組んでいる。</p>	B	<p>○2年次から本格的な探究活動が開始できるよう探究の手法、思考について小集団での実践で学ぶ。</p> <p>○2回目のフィールドワークでは1回目のフィールドワークの反省を活かし地域講師と連携を密にとり実りある活動にする。その後のまとめ時間においても可能な限り地域講師とさらに連携して実りある発表につなげる。</p> <p>○個々の進路選択状況を把握し、個々に応じた適切な指導を行いながらSMTの観点で指導を継続する。</p>
業務改善の取組の推進	業務の精選と組織的な実施	<p>○全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守して、質の高い業務を行っている。</p> <p><指標> 全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。</p>	<p>○部活動においては、昨年度前半は新型コロナウイルス感染症の影響により活動自体できなかったり、大会が中止されたりしたため、時間外勤務の時間が随分縮減された。</p> <p>○放課後の学習会やPTA関係の会、土日の出張等、可能な限り振替対応をした。</p> <p><R2実績> 年間の時間外業務360時間を超過している教職員は2割程度。(令和元年度より約1割減)</p>	<p>○部活動の年間計画及び月間計画の見直しを各部が行うとともに、日ごろから生徒が自ら考えて活動するように、定期的に部会をもつなどして、活動の効率化を図る。</p> <p>○各種委員会のメンバーの見直しをし、会議の効率化を図る。</p> <p>○教職員のシステム入力を徹底し、時間外業務時間を教員自身が認識する。</p>	<p>○年度当初に各種委員会のメンバーの見直しをし、会議の効率化を図るとともに、会議に臨む前の準備段階で時間的余裕を持った資料作成を行うよう心がけたが、すべての会議において十分にできているとは言い難い。</p> <p>○毎月開催する衛生委員会で、時間外業務時間が多い教職員について話題にし、互いの声かけに結びついたり、教職員自身の自覚につながったりしているところもあるが、特定の教職員の時間外業務が依然として多い。</p> <p><R3中間実績> 4月～9月までで時間外業務180時間を超過している教職員は1.6割。</p>	B	<p>○教職員のシステム入力をさらに徹底し、時間外業務時間を教員自身が日々確認することで、見直しを持ちながら業務に当たるよう呼びかける。</p> <p>○引き続き、部活動の年間計画及び月間計画の見直しを各部が行うとともに、日ごろから生徒が自ら考えて活動するように、定期的に部会をもつなどして、意識や意欲を高め、限られた時間内での活動の効率化を図る。</p>
	生徒への適切な対応	<p>○3年生の進路指導(教科・面接指導等)において、計画的・組織的に対応し、時間外業務の上限を遵守することを通して、生徒自身に進路実現に向けて必要な態度や能力を身に付けさせる。</p> <p><指標> 3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の数が前年度の半数以下となる。</p>	<p>○進路指導の分掌や3年団、生徒との個別の関わりのある教員を中心とした進路指導(教科・面接指導等)を行っている。生徒の実態を考えると、面接や志望理由書など、ある程度教職員の手入れをせざるを得ない状況であり、かなりの時間を費やしている。見方をかえると、取組の主体が教職員となっており、生徒が教職員に依存しきっているとも言える。</p> <p><R2実績> 3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の延べ数 33人</p>	<p>○3年生の進路指導(個別指導)の組織的に行う体制作りに向けて、小論文や面接に関する教員研修を行う。</p> <p>○3年担任団には、夏休みに入るまでに、進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行えるようにする。</p>	<p>○3年生の進路指導(個別指導)の組織的に行う体制作りに向けて、小論文や面接に関する資料を適宜配布し、アナウンスを行った。また、昨年度以上に、ほとんどの教職員を推薦入試に向かう生徒の指導担当に付けることで、教職員一人が担当する生徒の数を少なくした。</p> <p>○3年担任団には、夏休みに入るまでに、進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行えるようにした。</p> <p><R3中間実績> 9月における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の数 4人</p>	B	<p>○時間外業務が特に多い教職員には、教職員が自身の時間外業務時間を認識した上で、3年の生徒自身に、進路実現に向けて必要な態度や能力を身に付けさせられているか意識した進路指導を行うよう、声かけを行う。</p>